

# 「課題先進地」から 「課題解決先進地」へ

うなん 雲南市長(島根県) はやみ ゆういち 速水雄一  
*Yuichi Hayami*



## 生命と神話が息づく わがまち 雲南市

雲南市は、人口約4万人、島根県の東部に位置し、北は松江市、出雲市と隣接し、南は広島県に接しています。

市の中央部を流れる斐伊川はヤマタノオロチ伝説で知られ、各地に神話や伝説が残り、数多くの遺跡があります。また、平成8年10月、雲南市加茂岩倉遺跡からは、弥生時代中期から後期と思われる全国最多39個の銅鐸が出土し、考古学会はもちろん、全国に大きな衝撃を与えました。同遺跡は、平成20年7月には国宝に指定されております。

また、山間地では古くから、たたら製鉄



「雲南市桜まつり」で談笑する筆者

や炭焼きが盛んに行われ、特に「菅谷たたら山内」は、かつて全国一の鉄の生産量を誇り、閉山後も全国で唯一現存する「山内」として、重要有形民俗文化財に指定されています。現在、保存修理工事を進めています。そのうち主要な建物である高殿は本年秋に竣工する予定です。

この他にも、日本桜名所百選に選ばれた斐伊川堤防の桜並木や、日本の滝百選に選定された龍頭が滝など、数多くの地域資源に恵まれています。

現在、広島県尾道市と島根県松江市を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線の整備が進んでいます。平成26年度末には全線が開通し、山陰、山陽、四国方面が高速道路で結ばれることになり、アクセスも非常に良くなります。市内には海潮温泉や湯村温泉もありますので、ぜひ一度雲南市へお越しいただき、雲南市の良さを体感していただきたいと思えます。

## 私なりの健康管理

雲南市は、平成16年11月に、旧大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村および掛合町が合併して誕生しました。経緯も歴史も違う6つの団体が一つになるわけですし、また行政区域も553.4km<sup>2</sup>と非常に大きく、それを一つにまとめ、かつ合併前に比べ行政サービスが落ちないようにするためには、たいへんなエネルギー

が必要でした。

私自身、合併直後の選挙で当選以来、今日まで3期務めさせていただいていますが、合併当初は、都合がつく限り市内に出掛け、各種団体や市民との対話を精力的に行いました。

特に市民の皆さまとの対話の必要性を強く感じたのは、自らの選挙戦を通してでした。7日間連続して雲南市全域をくまなく回り、その間、本当に多くの方々の心のもつたご声援をいただきました。その選挙期間中に市民の方から「市政運営にあたっての心構え」とするようにと、一枚の半紙を渡されました。それには、「気は長く、心は丸く、腹たてず、口つつしめば、命ながかれ」とありました。市民の皆さまと同じ目線での意思疎通を大切に、心穏やかな「平常心」を信条として普段の生活を過ごし、そして市政運営にあたらねばと改めて強く胸に刻んだところです。

このように、精力的に市政運営に取り組んでいるところですが、秘書担当職員と日程調整を行っておりますと、知らず知らずのうちに手帳が行事で一杯になってしまいます。

こうした状況が続いているからこそ、自らの健康にも人一倍配慮するように努めてまいりました。自身体を動かすことが大好きで、学生時代にはバスケット

ボールや陸上競技などのスポーツに熱い情熱をかけた時期もありました。卒業後

には、地元の体育協会に所属し、県内随一の駅伝競走大会『六道湖一周駅伝』にも出場しました。合併前の旧加茂町長に就任してからは、走る時間も無くなりませんが、ここ数年、毎朝5時ごろから欠かさずウォーキングを行っておりますし、また大学卒業時から毎日欠かさず腕立て伏せを続けています。本市で毎年行っているチャレンジデーにも自ら率先して参加し、軽スポーツに汗を流しています。また、常日ごろ食事にも配慮し、できる限り小食に努めるようにしています。

これからも、こうした健康づくりを心掛け、健全な体を維持しながら、市政運営に取り組んでまいりたいと考えています。



新たな雲南市PRロゴ「出雲のみなもと雲南」を発表

## 協働のまちづくりと地域の絆

さて、中山間地に位置する雲南市は、過疎化、少子化、高齢化等の課題に直面しており、島根県の10年先、全国の20年先を行っている課題先進地です。そこで雲南市では、発足以来10年間、雲南市ならではの地域資源である、世代が触れ合う地域の絆、笑顔あふれる家族の暮らし、多彩な歴史遺産、美しい農山村の風景、安心安全な食と農、を5つの恵みとして、これらの恵みを生かしたまちづくりを進めてきました。

また、そのまちづくりの担い手として、地域課題を住民自ら解決し、その振興発展をはかるためのベースとして、新たな地縁組織「地域自主組織」の結成に力を入れてきました。その効果は目に見える形で表れています。平成25年春から行っている「雲南市に地域自治を学ぶ会（雲南ゼミ）」には、毎回全国各地から多数の参加者があり、今や、小規模多機能自治における最先端事例として、全国各地から注目いただいております。

こうしたまちづくりにより、直面している課題を解決しようと努力してきた雲南市を課題先進地から「課題解決先進地」と自負できるように、これからの新たな10年に向かって、市民挙げてのまちづくりに取り組んでいく所存です。

最後に、私が尊敬する雲南市が生んだ偉大な先人お二人の言葉を紹介したいと思います。放射線医学の研究と原子爆弾により白血病におかされながらも『長崎の鐘』などの名作を著した永井隆博士が訴えられた言葉に『如己愛人』があります。これは「己を愛する如く人を愛せよ」という意味です。また、日本女子大学学長をつとめられた上代タノ氏は、『故郷を愛す、国を愛す、世界を愛す』という言葉を残されました。これらの言葉は私の政治姿勢の根幹となっています。これからも、こうした先人の言葉を深く胸に刻み、地域住民が支え合い、地域の絆を大切に、そうしたまち・雲南市をつくり上げていきたいと思っています。



認定こども園「木次こども園」開設